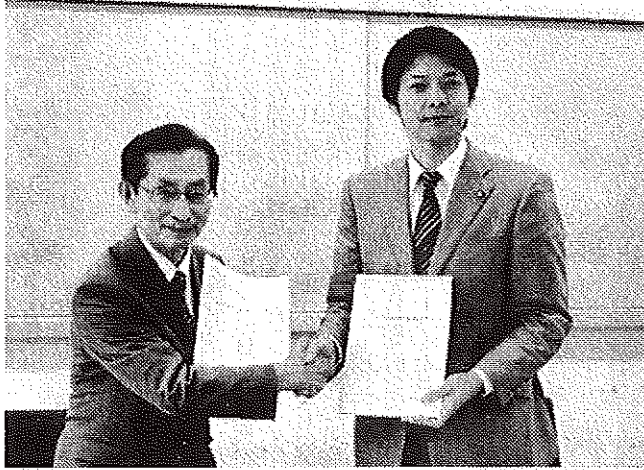


# 旧のぞみ小が老人ホームに

## 校舎など無償譲渡

### 市と運営法人が契約締結



市の学校統廃合で3年前に廃校となった市内紅葉山の旧のぞみ小学校が、ことし12月から、同地域にある養護老人ホーム「夕張みどりの園」として活用されることになり、市は30日、同ホームを運営する社会福祉法人「夕張みどりの会」(甚野弘室理事長)と市役所で、同小学校舎などを無償譲渡する契約を結んだ。

みどりの園の前身の夕張市養護老人ホームは2008年秋に恵庭市の社会福祉法人「いちはつの会」に委譲され、11年、同法人から夕張みどりの会が独立して運営を引き継いだ。昭和25年に開設された同ホームは同48年に全面改装されたが、40年近くが経過して老朽化が進み、いちはつの会が2009年に屋根をふき替え、内部の床を張り替えたり、壁クロスなども張り替え、エレベーターを新設。浴室のバリアフリー化も進め、身障者用トイレも新設するなど、改修・新設に約2千万円をかけている。現在定員50人で、48人がほぼ1室2人で入居しているが、新耐震基準を満たしておらず、さらに老朽化が進んで雨漏りや床抜けが起きたため、同法人は移転先を探していた。

のぞみ小は鉄筋コンクリート2階建てで、約2145平方メートルで、みどりの会は同小にホームを移した後、増改築し、居室をすべて個室化する。

調印式の後、鈴木直道市長は「学校施設を旧のぞみ小学校舎などを無償譲渡する契約を結んだ鈴木市長(右)と甚野理事長

老人ホームに転用するのは道内で初めて。国・道の協力で智慧を集めて生まれ変わることになる。災害時の避難所としても協力してもらえ、今後に期待したい」と述べた。甚野理事長は「クラウンドの遊具なども使い、体育館でも子どもが遊んでくれれば入居者には何よりのリハビリとなる。卒業生の思いがある施設なので、地域と連携して運営したい」と話した。



## 夕張タイムス紙 掲載記事

平成26年6月1日発行の夕張タイムス紙に、当法人の記事が掲載されました。記事見出しの通り、3年前の学校統廃合で廃校となった旧のぞみ小が今年12月から、当法人施設の『夕張みどりの園』として活用されることについて、自治体との契約を締結したことにに関する記事です。

左写真は理事長の甚野氏と、夕張市長の鈴木氏。